

(証券コード:4118)
株主のみなさまへ

第89期 中間報告書

平成24年4月1日-平成24年9月30日

株式会社 **カネカ**

もっと、驚く、みらいへ。

kaneka

株主のみなさまへ

株主のみなさまには平素より格別のご高配を賜り、厚く御礼申し上げます。
ここにカネカグループの平成24年4月1日から平成24年9月30日までの第89期
第2四半期累計期間(上半期)の事業概況につきご報告申し上げます。

世界経済は、米国では景気が緩やかなが
ら回復の兆しを見せているものの、欧州に
おける政府債務危機の長期化や、中国、
インド等のアジア地域での景気拡大の鈍化
などにより、減速感が広がっております。

わが国経済についても、震災復興需要
などによる景気回復が期待されるものの、
ここにきての世界経済の減速、長引く円高、
原燃料価格の上昇及び日中関係の悪化な
どの不安定要素を抱え、先行き不透明な状
況が続いております。

このような情勢のなか、カネカグループ
は、各事業において販売量増大やコストダウ
ン等に徹底して取り組み、収益確保に努めて
まいりましたが、円高、原料価格の高騰の影

響を強く受けました。

この結果、当第2四半期累計期間における
グループ全体の業績は、売上高は2,338億
円と前年同期比0.5%の減収となりました
が、営業利益は74億円と前年同期比15.0%
の増益、経常利益は68億円と前年同期比
17.5%の増益、四半期純利益は35億円と
前年同期比24.4%の増益となりました。

中間配当金につきましては、1株につき
8円とさせていただきます。

カネカグループは、重点戦略分野への事業
展開を進め、新規事業の創出、グローバル展
開やアライアンスの強化等により、事業構造
の変革を進めてまいります。また、既存事業
での販売量増大のための施策や、生産から

販売まで含めたトータルコスト低減に向けた技術開
発や業務革新をグループ一体となって進め、収益
力強化に徹底して取り組んでまいります。

株主のみなさまにおかれましては、今後とも
一層のご支援を賜りますよう心よりお願い申し
あげます。



代表取締役 社長

山本 圭一

CONTENTS

ごあいさつ	1
特集:カネカグループの業務革新の取り組みについて	3
事業別の状況	5
連結財務ハイライト	8
連結財務諸表	9
カネカグループの概要	10
トピックス	11
企業データ	13
株主様向けインフォメーション	14

〈カバーアート〉
・アーティスト: 曾谷 朝絵
・タイトル: 鳴る光
・制作年: 2011
・films on floor and wall
・Yokohama Civic Art Gallery, Kanagawa
・撮影: Yamamoto Keita





カネカグループは、「変革と成長」を実現すべく様々な改革に取り組んでいます。今回は中でも業務革新について社長の菅原がご説明いたします。

Q1 カネカが取り組んでいる業務革新についてその背景と狙いを教えてください。

日本経済はデフレと円高で不況色が続き、市場の縮小や日本の高コスト体質とが相まって製造業の空洞化が止まりません。新旧産業地図の入れ替えが進む一方で、驚くスピードで技術革新が進み産業構造転換に火がついています。このようなことは歴史上だれも経験したことがなくその渦中に私たちはいます。したがって、ポートフォリオの変革、R&D・生産の変革、業務・人の変革など企業体質の強化なくして激動のグローバル競争時代を勝ち抜けないと考え、全社をあげて様々な変革の取り組みを推進しています。

特にグループの持続的な成長を支えるためには、新鮮な視点で仕事の共通基盤である業務運営の仕組みを見直し再整備することが不可欠であると考え、3年前に業務革新本部を立ち上げました。

Q2 業務革新の取り組み内容についてもう少し詳しく説明してもらえますか。

業務革新本部のスタートにあたって課題を4つに絞りこみました。

具体的には、次の通りです。

- (1) 経営管理の仕組みの再構築
- (2) 最新の情報処理技術を駆使した業務の見直し
- (3) グループ全体最適をにらんだ物流部門の再編成
- (4) コスト改善活動の一層の強化

これらの課題に取り組むにあたって、まず進歩が著しい最新のIT技術・機器の導入と情報システムの抜本的刷新計画を決断しました。すなわち販売物流をはじめとする基幹システムの再構築にはじまり、情報コミュニケーションツールの刷新や経営管理を高度化するためのデータウェアハウスの整備などを積極的に進めています。

Q3 物流部門の変革を挙げていますが、何が問題になっていたのでしょうか。

カネカグループは事業が多岐にわたり、その多様な事業特性から物流組織が事業部ごとに独立していました。その結果、例えば受注業務を中心とした事業部物流と輸配送を中心とした工場物流が独立に存在するなど個別最適が優先される仕組みになっていました。

私たちは今、かつて経験したことがない変化の時代を迎えて、これまで当たり前と考えていた制度や仕組み、一見平凡な日常業務を新しい視点から見直す必要があると感じています。全社物流の見直しもそのような問題意識から取り組んできました。

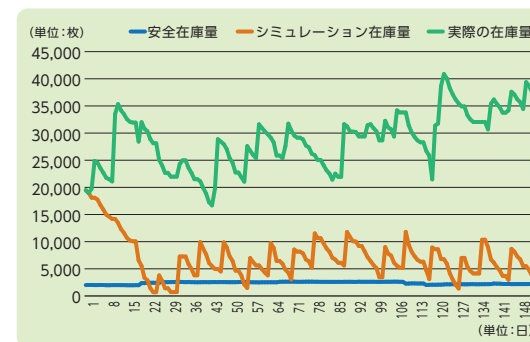
Q4 物流業務の変革に向けた取り組みについて教えてください。

今年4月に、事業部門・生産部門が垣根を越えて協働し、グループ全体最適の視点で物流業務の抜本的な改革を進める物流業務についての全社統括組織、物流統括部を設立しました。

理ポイントを明確にしてコストミニマムで効率的なカスタマーサービスを提供する、物流戦略の立案と実行です。

物流統括部の使命は、まず「物流コストの見える化」「最適在庫管理システムの導入(図1)」「輸出業務の一元化・効率化」など、すでに動き出したプログラムを全社横断的横串機能として磨きをかけること。同時に、グループ全体最適の観点に立った物流業務の管

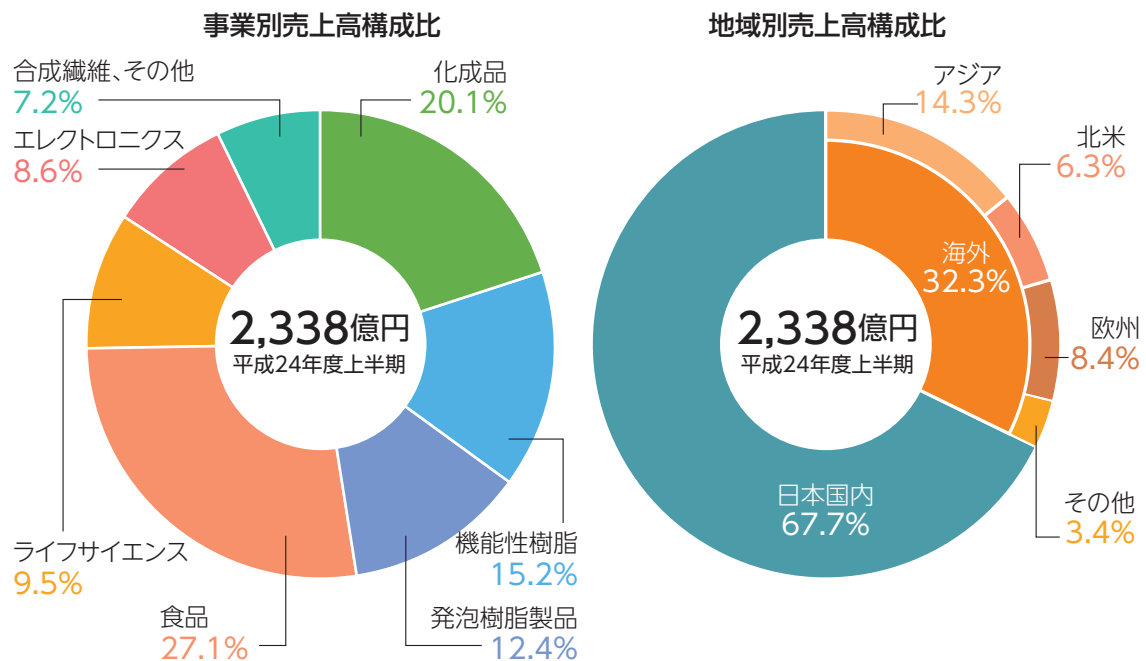
このように当面は関係会社を含めた新しいグループ物流管理体制の構築や国際物流網(特にアジア圏)の構築を中心に取り組みますが、将来的には全社一本化されたロジスティック組織、いわゆるグループSCM(サプライチェーン・マネジメント)体制構築につなげていきたいと思っています。



▲図1 (発注点管理方式による在庫コントロールのシミュレーション結果)



▲高砂工業所から海上輸送される輸出用コンテナ



※グラフの比率は表示単位未満を四捨五入しています。

化成製品事業



主要製品
塩化ビニール樹脂、塩ビコンパウンド、か性ソーダ、塩化物、塩ビ系特殊樹脂

カネビニール®(塩化ビニール樹脂)は日用品から産業資材まで幅広い分野で使用されています。

塩 化ビニール樹脂につきましては、国内需要が低調に推移しました。塩ビ系特殊樹脂につきましては、国内市場・海外市場ともに販売量が増加しました。か性ソーダにつきましては、国内市況が堅調に推移しました。以上の結果、当事業は売上高、利益ともに前年同期を上回りました。

機能性樹脂事業



主要製品
モディファイヤー、変成シリコンポリマー、耐候性MMA系フィルム

カネカMSポリマー®(変成シリコンポリマー)を原料としたシーリング材は高層ビルから一般建築まで使用されています。

モ ディファイヤーにつきましては、製品差別化力の向上、コストダウンなどの収益体質強化に注力しましたが、国内及び海外市場の需要低迷の影響を強く受け、販売量は低調に推移しました。変成シリコンポリマーにつきましては、国内向けの販売量が増加しました。以上の結果、当事業は売上高、利益ともに前年同期を下回りました。

発泡樹脂製品事業



主要製品
発泡スチレン樹脂・成型品、押出發泡ポリスチレンボード、ビーズ法発泡ポリオレフィン

エペラン-PP®(ビーズ法発泡ポリプロピレン)は自動車用バンパーの緩衝材等として使用されています。

発 泡スチレン樹脂、押出發泡ポリスチレンボードにつきましては、販売量が前年同期を下回りました。ビーズ法発泡ポリオレフィンにつきましては、東日本大震災やタイの洪水災害によって停滞したサプライチェーンの回復などを背景に販売量が増加しました。以上の結果、当事業は売上高、利益ともに前年同期を上回りました。

食品事業



主要製品
マーガリン、ショートニング、高級製菓用油脂、パン酵母、香辛料

カネカマーガリン、カネカショートニングを使用した焼き菓子。

当 事業につきましては、低価格品志向が一層強まるなかで、新製品の拡販やコストダウンに注力したものの、販売量が低調に推移しました。以上の結果、当事業は売上高、利益ともに前年同期を下回りました。

ライフサイエンス事業

主要製品

医薬品(バルク・中間体)、機能性食品素材、医療機器



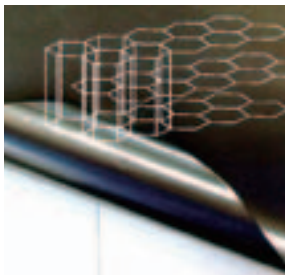
安心。安全。高品質。素材にこだわってお届けするカネカのサプリメント製品群。

医 療機器につきましては、インターベンション事業が公定価格の引下げの影響を受けました。医薬バルク・中間体につきましては、販売量が低調に推移しましたが、機能性食品素材につきましては、販売量が前年同期を上回りました。以上の結果、当事業の売上高は前年同期を下回りましたが、利益は上回りました。

エレクトロニクス事業

主要製品

超耐熱性ポリイミドフィルム、液晶関連製品、複合磁性材料、太陽電池



グラフィニティ(超高熱伝導グラファイトシート)はモバイル電子機器をはじめ様々な用途の熱拡散・放熱に威力を発揮します。

超 耐熱性ポリイミドフィルム、光学材料につきましては、エレクトロニクス製品市場の需要の拡大と新規案件の採用などにより販売量が前年同期を上回りました。太陽電池につきましては、国内市場向けの拡販と徹底したコストダウンに注力しました。太陽電池関連部材につきましては、販売量が低調に推移しました。以上の結果、当事業の売上高は前年同期を上回り、損失が縮小しました。

合成繊維、その他事業

主要製品

アクリル系合成繊維(カネカロン)

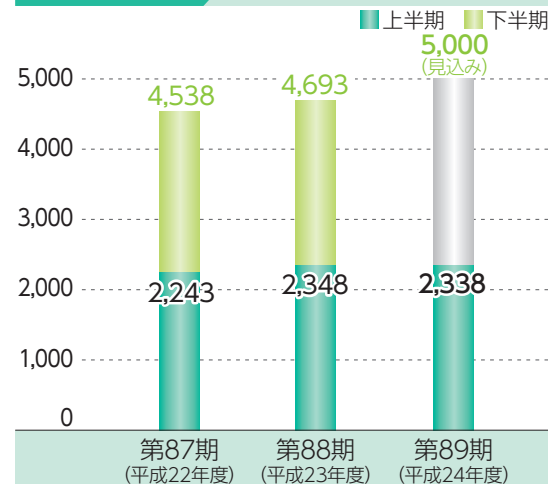


安全・安心を武器にカネカロンはProtex®ブランドで主に防護服用素材として使用されています。

合 成繊維につきましては、高付加価値品の拡販、販売価格の修正やコストダウンなどの収益改善策に注力しました。以上の結果、当事業は売上高、利益ともに前年同期を上回りました。

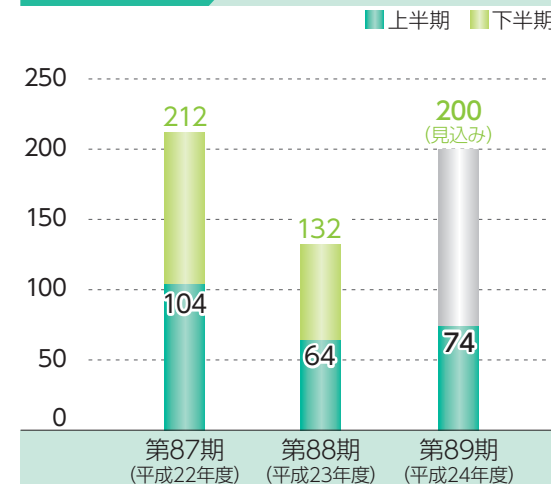
売上高

(単位:億円)



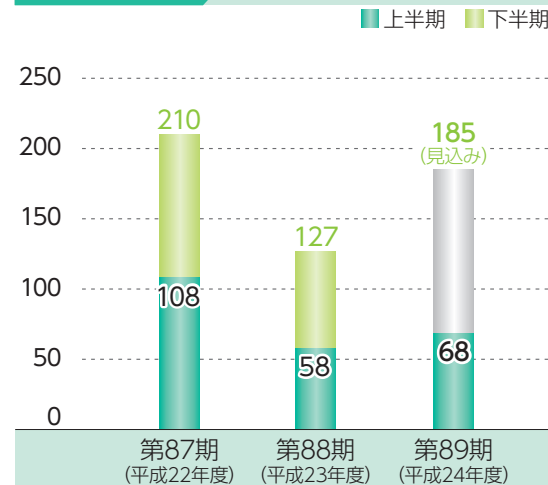
営業利益

(単位:億円)



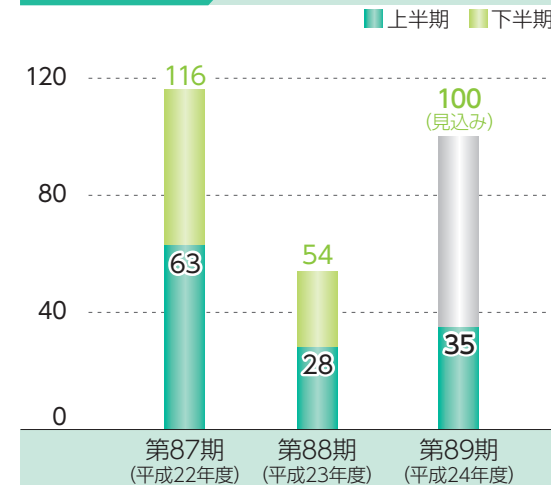
経常利益

(単位:億円)



当期純利益

(単位:億円)



四半期連結貸借対照表(要約)

(第2四半期連結会計期間末)

(単位:億円)

科目	第89期	第88期
	平成24年9月30日現在	平成24年3月31日現在
資産		
流動資産	2,275	2,360
固定資産	2,286	2,311
資産合計	4,561	4,671
負債		
流動負債	1,330	1,459
固定負債	694	638
負債合計	2,024	2,096
純資産		
株主資本	2,556	2,547
その他	△ 19	28
純資産合計	2,537	2,575
負債・純資産合計	4,561	4,671

Point

- **総資産**は、前連結会計年度末に比べ110億円減少し、4,561億円となりました。
- **有利子負債残高**は、16億円増加し、763億円となりました。
- **純資産**は、その他有価証券評価差額金や為替換算調整勘定の減少等により、38億円減少し、2,537億円となりました。

四半期連結損益計算書(要約)

(第2四半期連結累計期間)

(単位:億円)

科目	第89期	第88期
	平成24年4月1日から平成24年9月30日まで	平成23年4月1日から平成23年9月30日まで
売上高	2,338	2,348
営業利益	74	64
経常利益	68	58
税金等調整前四半期純利益	59	55
四半期純利益	35	28

Point

- **売上高**は前年同期に対し11億円・0.5%の減収となりました。
- **利益**は前年同期に対して営業利益で10億円・15.0%、経常利益で10億円・17.5%、四半期純利益で7億円・24.4%の、それぞれ増益となりました。
- **為替**は対ドル、対ユーロともに円高となり、前年同期に対して売上高で△31億円、営業利益で△6億円の影響を受けました。

四半期連結キャッシュ・フロー計算書(要約)

(第2四半期連結累計期間)

(単位:億円)

科目	第89期	第88期
	平成24年4月1日から平成24年9月30日まで	平成23年4月1日から平成23年9月30日まで
営業活動によるキャッシュ・フロー	139	28
投資活動によるキャッシュ・フロー	△ 170	△ 144
財務活動によるキャッシュ・フロー	△ 6	△ 45
現金及び現金同等物の四半期末残高	233	214

Point

- **営業活動**による資金の増加は、税金等調整前四半期純利益や減価償却費等により139億円となりました。
- **投資活動**による資金の支出は、有形固定資産の取得による支出等により170億円となりました。
- **財務活動**による資金の支出は、配当金の支払額等により6億円となりました。
- この結果、**現金及び現金同等物の当第2四半期連結会計期間末残高**は、233億円となりました。

※詳細な情報をお知りになりたい方は、当社WEBサイトをご覧ください。

カネカ IR 検索

カネカグループの概要

平成24年9月30日現在

国内ネットワーク

化成系	■ 昭和化成工業(株)	■ 龍田化学(株)		
機能性樹脂	■ セメダイン(株)			
発泡樹脂製品	■ 北海道カネパール(株)*	■ ツカサ(株)*	■ 関東スチレン(株)	■ 宮城樹脂(株)*
	■ 北浦樹脂工業(株)*	■ コートー(株)*	■ 標津化成(株)*	■ 紋別化成(株)*
	■ コスモ化成(株)*	■ 東洋スチロール(株)*	■ (株)ハネパック*	■ カネカフォームプラスチック(株)
	■ (株)羽根	■ 高知スチロール(株)	■ 玉井化成(株)	■ 北海道カネカ(株)**
	■ 九州カネライト(株)	■ カネカケンテック(株)	■ 三和化成工業(株)	■ イビデン樹脂(株)
	■ (株)イーピーイ			
食品	■ (株)カネカフード	■ (株)東京カネカフード	■ (株)カネカサンスパイス	■ 太陽油脂(株)
	■ カネカ食品販売(株)	■ 東京カネカ食品販売(株)	■ 東海カネカ食品販売(株)	■ 九州カネカ食品販売(株)
	■ 新化食品(株)			
ライフサイエンス	■ (株)カネカメディックス	■ (株)大阪合成有機化学研究所		
エレクトロニクス	■ 栃木カネカ(株)	■ カネカソーラーテック(株)	■ サンビック(株)	■ (株)ソーラーサーキットの家
	■ (株)ヴィーネックス	■ カネカソーラー販売(株)		
合成繊維、その他	■ (株)カネカ高砂サービスセンター			

海外ネットワーク

ヨーロッパ	■ カネカベルギーN.V.	■ カネカファーマヨーロッパN.V.	■ ユーロジェンテックS.A.
	■ カネカモディファイヤーズドイチュランドGmbH		
アメリカ	■ カネカアメリカズホールディングInc.	■ カネカノースアメリカLLC	■ カネカファーマアメリカLLC
アジア/オセアニア	■ カネカシンガポールCo.(Pte)Ltd.	■ カネカマレーシアSdn.Bhd.	■ カネカエペランSdn.Bhd.
	■ カネカペーストポリマーSdn.Bhd.	■ カネカイノベイティブファイバースdn.Bhd.	■ カネカアピカルマレーシアSdn.Bhd.
	■ 蘇州愛培朗緩衝塑料有限公司	■ 青島海華繊維有限公司	■ 鐘化企業管理(上海)有限公司
	■ 鐘化貿易(上海)有限公司		

*平成24年10月1日に発泡スチロール成形品製造会社を再編し、あわせて社名を変更いたしました。

①紋別化成(株)、標津化成(株)及びコートー(株)を北海道カネパール(株)に吸収合併し、北海道カネパール(株)はカネカ北海道スチロール(株)に社名変更いたしました。

②ツカサ(株)を宮城樹脂(株)に吸収合併し、宮城樹脂(株)はカネカ東北スチロール(株)に社名変更いたしました。

③北浦樹脂工業(株)はカネカ関東スチロール(株)に社名変更いたしました。

④コスモ化成(株)を東洋スチロール(株)に吸収合併し、東洋スチロール(株)はカネカ中部スチロール(株)に社名変更いたしました。

⑤(株)ハネパックはカネカ西日本スチロール(株)に社名変更いたしました。

**平成24年11月1日に北海道カネカ(株)は、北海道カネライト(株)に社名変更いたしました。

■印は連結子会社、■印は持分法適用関連会社であることを示します。

連結子会社の数 63社 (上記以外に連結子会社が7社あります。) / 持分法適用関連会社の数 3社

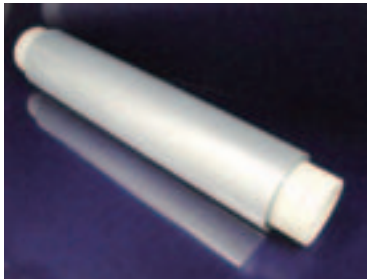
エレクトロニクス分野での新製品開発

～フレキシブルディスプレイ用絶縁材料と静電容量式タッチパネル用ITOフィルム～

IT関連製品市場は、スマートフォンやタブレット型パソコンが急速に普及しており活況を呈しておりますが、当社でこれらの用途向けに開発し、ユーザーでの評価も高い新製品を紹介いたします。

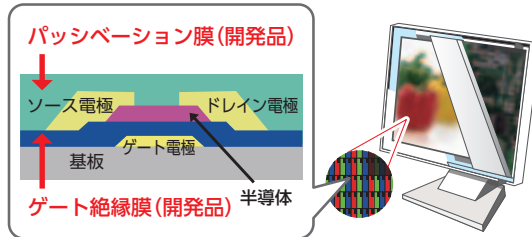
当社は、光デバイス周辺材料などのオプトエレクトロケミカルズを重点戦略領域の一つに位置付け、新素材の開発に取り組んでまいりましたが、この度、液晶ディスプレイに代表される表示デバイス分野の軽量化、フレキシブル化に対応したディスプレイ駆動用薄膜トランジスタ(TFT)の絶縁材料を開発しました。これは、当社が得意とする特殊シリコン化合物と有機オレフィン化合物から成るハイブリッド材料の技術を更に進化させたものです。従来の絶縁材料に比べて簡便な塗布と短時間の加熱で高い絶縁性能を発揮でき、製造コストを大幅に下げることができるとともに、熱に弱いプラスチック基板にも利用できます。すでに複数の大手エレクトロニクスメーカーで高い評価を得ており、早期の技術承認を得て、2015年度に50億円の売上を目指します。

さらに、スマートフォンやタブレット型パソコン向けに急速に拡大している静電容量式タッチパネル市場に向けてITOフィルム*を開発しました。静電容量式タッチパネルでは、画面内にエッチングによりITO電極のパターンを形成するため、パターンが見えない非視認性が必須であり、また、タッチパネルの大型化のためにITOフィルムに対する低抵抗の要求があります。当社製品は、 $150\Omega/\text{sq}$ (オーム/スクエア)以下の低抵抗で高い透過率とパターンの非視認性を達成し、タッチパネルの大型化への対応や低温プロセスによって光学フィルムとの複合も可能です。当社の保有する太陽電池の薄膜技術と電子材料分野の光学フィルム技術との総合力から生み出された製品であり、この強みを生かして、2015年度に100億円の売上を目指します。



ITOフィルムの外観

* ITOフィルムとはPETフィルムなどのフィルム上にITO(酸化インジウム錫)をコーティングした透明な導電性フィルムのこと。



ディスプレイ用途での開発品の使用例

更なる物流合理化を目指し、カネカ 食品東日本物流センターを竣工

当社はこの度、埼玉県川越市にカネカ 食品東日本物流センターを竣工いたしました。

当物流センターは、従来は関東圏各地に点在していた物流倉庫を集約することで、カネカ食品事業グループ全体での在庫管理・配送の最適化を行い、大幅な物流の合理化を実現する目的で開設されました。倉庫延床面積は約2万㎡で、約6千トンの倉庫保管能力を有し、冷蔵、冷凍、常温の倉庫を基本にすべての庫内が調温可能なシステムを完備しています。また、年中無休24時間体制で当倉庫を稼働させ、取引先からの要望に対してきめ細かくかつ迅速に対応できる物流体制を構築していきます。



カネカ 食品東日本物流センターの外観

すでに一昨年稼働したカネカ 食品西日本物流センター(大阪府摂津市、倉庫延床面積1万2千㎡)とあわせて、全国レベルでの保管・発送の合理化、物流品質管理を更に向上させ、取引先からの信頼を得ることで食品事業の競争力強化、事業強化を目指します。

CSR 当社の環境保全への取り組み

当社高砂工業所では、兵庫県の「企業の森づくり事業」に参画しており、兵庫県多可町の山林整備・保全活動を進める社会貢献活動事業「カネカみらいの森づくり」を6月9日に始めました。同事業に参加するのは県内では20社目。山林約15ヘクタールを対象に平成29年5月までの5年間で、計15回程度の活動を予定しています。

また、当社大阪工場敷地内にて、当社、摂津ほたる研究会、摂津市の合同主催による「摂津の森 カネカビオトープ」が8月9日に竣工されました。これは大阪工場の工場緑地

の一部をビオトープ(蛍などが観察できる親水空間)としての施設を建設し摂津市に貸与するものです。数年後には、蛍が飛び交う市民の憩いの場として、また蛍が生息する当社大阪工場が見られることでしょう。



「カネカみらいの森づくり」事業

「摂津の森 カネカビオトープ」

会社の概要

社名 株式会社 **カネカ** (KANEKA CORPORATION)
 本店 〒530-8288
 大阪市北区中之島三丁目2番4号
 TEL (06)6226-5050(代表)

設立年月日 昭和24年9月1日

資本金 33,046,774,709円

ホームページ <http://www.kaneka.co.jp/>

役員

取締役会長	武田 正利	常務執行役員	吉成 亨
代表取締役社長	菅原 公一	常務執行役員	井口 明彦
代表取締役副社長	羽鳥 正稔	常務執行役員	水澤 伸治
取締役専務執行役員	原 哲郎	常務執行役員	川勝 厚志
取締役専務執行役員	永野 広作	執行役員	三瓶 幸司
取締役常務執行役員	小山 信行	執行役員	内田 喜実
取締役常務執行役員	亀本 茂	執行役員	上田 恭義
取締役常務執行役員	岸根 正実	執行役員	古吉 重雄
取締役常務執行役員	中村 敏雄	執行役員	石原 忍
取締役常務執行役員	田中 稔	執行役員	天知 秀介
取締役常務執行役員	岩澤 哲	執行役員	亀高真一郎
取締役常務執行役員	角倉 護	執行役員	武岡 慶樹
取締役	井口 武雄	執行役員	石田 守
監査役(常勤)	井野口康男	執行役員	落合 計夫
監査役(常勤)	松井 英行	執行役員	丸藤 峰俊
監査役	塚本 宏明	執行役員	山田 和彦
監査役	廣川 浩二	執行役員	藤井 一彦

株式の状況

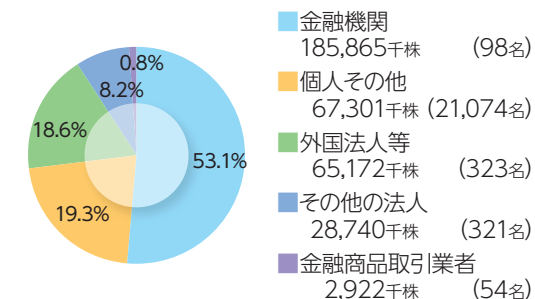
発行可能株式総数 750,000,000株
 発行済株式の総数 350,000,000株
 株主数 21,870名
 1人当たり平均持株数 16,004株

大株主の状況

株主名	持株数(千株)	持株比率(%)
日本トラスティ・サービス信託銀行株式会社(信託口)	22,462	6.67
日本マスタートラスト信託銀行株式会社(信託口)	19,330	5.74
日本生命保険相互会社	18,987	5.63
株式会社三井住友銀行	15,458	4.59
日本トラスティ・サービス信託銀行株式会社(信託口4)	13,382	3.97
明治安田生命保険相互会社	13,125	3.90
三井住友海上火災保険株式会社	11,724	3.48
株式会社三菱東京UFJ銀行	11,544	3.43
日本トラスティ・サービス信託銀行株式会社(信託口9)	8,528	2.53
三井物産株式会社	5,543	1.65

(注) 1. 上記のほか、当社が保有している自己株式が13,027千株あります。
 2. 持株比率は、発行済株式の総数から自己株式数を減じた株式数を基準に算出し、小数第三位を四捨五入しております。

所有者別株式分布状況



大阪本社移転に関するお知らせ

この度、当社は大阪本社オフィスを中之島フェスティバルタワーに移転します。フェスティバルタワーは、現在の朝日新聞ビルの向かいに位置し、最高水準の耐震構造と環境面にも配慮したビルで、今年10月末に竣工しました。地下鉄四つ橋線肥後橋駅、京阪中之島線渡辺橋駅とも直結しています。新しいオフィス環境で、更なる飛躍に向けて邁進してまいります。

●移転先

大阪市北区中之島二丁目3番18号
 中之島フェスティバルタワー
 ※郵便番号、代表電話番号の変更はありません。

●新オフィスの営業開始日

平成25年1月7日(月)



株主メモ

事業年度 毎年4月1日から翌年3月31日までの1年
 定時株主総会 6月
 定時株主総会 3月31日
 基準日 期末配当金 3月31日
 中間配当金 9月30日
 公告方法 電子公告
<http://www.kaneka.co.jp/koukoku/index.html>
 株主名簿管理人 三菱UFJ信託銀行株式会社
 特別口座の口座管理機関 三菱UFJ信託銀行株式会社
 大阪証券代行部
 〒541-8502
 大阪市中央区伏見町三丁目6番3号
 (お問合せ先)
 TEL 0120-094-777(通話料無料)

(注)
 1. 株主様の住所変更、買取請求その他各種お手続きにつきましては、原則、口座を開設されている口座管理機関(証券会社等)で承ることとなっております。口座を開設されている証券会社等にお問い合わせください。
 2. 特別口座に記録された株式に関する各種お手続きにつきましては、左記特別口座の口座管理機関の三菱UFJ信託銀行にお問い合わせください。なお、三菱UFJ信託銀行全国本支店にてもお取次ぎいたします。
 3. 未受領の配当金につきましては、三菱UFJ信託銀行本支店でお支払いいたします。